

5章 退行性病変

退行性病変とは加齢や障害により、細胞に元気がなくなり、小さくなり(萎縮)、必要のない物質をためてしまう(変性)病変のこと。また、壊死や死も含む。

リポフスチンが細胞にたまった状態:褐色萎縮(年齢とともに細胞が褐色に！いわゆるシミ。)

異常蛋白であるアミロイドという物質が骨、関節、脳などにたまった状態(アミロイド変性やアミロイドーシスという):結核、骨髄腫、関節リウマチ、アルツハイマー病

ビリルビンが血液中にたまった状態:黄疸

黄疸の種類	原因物質	病名
溶血性黄疸	間接型ビリルビン	血液型不適合輸血
肝細胞性黄疸	直接型ビリルビン	肝炎(薬剤性肝障害やウイルス性肝炎など)、肝硬変、肝癌
閉塞性黄疸	直接型ビリルビン	先天性胆道閉塞症、胆石

尿酸が血液中、関節にたまった状態:痛風(尿酸は細胞核を分解したもの。イメージ:ビールや核をもつ卵が大好きなおっちゃんに多い)

糖脂質が細胞にたまった状態:ゴーシェ病(糖脂質が脾臓にたまり脾腫になる。脾臓は血球を破壊する場所。
脾腫によりたくさんの赤血球が破壊されると貧血に、血小板が破壊されると出血しやすくなる)

グルコースが血液中にたまった状態。いわゆる高血糖の状態:糖尿病(3大合併症である網膜症、腎症、神経障害も国家試験に出る)

	I型糖尿病(欧米人に多い。やせている)	II型糖尿病(日本人に多い。肥満体型)
病態	β 細胞が壊れているため、インスリン分泌が不足している。	受容器に問題があり、インスリンを受け取れない。インスリン抵抗性の状態。
原因	自己免疫疾患。	遺伝的要因の関与が強い。
発症率	少ない(5%)。	多い(95%)。
発症年齢	20歳以下(イメージ:小学生)	40歳以上(イメージ:おっちゃんやじいちゃん)

脳死と植物状態の違い

脳死:脳幹を含む脳全体の機能がダメ。脳波が出ていない(平坦脳波という)。

植物状態:筋肉は動かない。脳幹は生きているので、呼吸はできる。管を用いて胃に直接栄養物を送れば消化できる(経管栄養)。必要脳波が出ている。

壊死:生体の一部の細胞、組織の死

凝固壊死:心筋梗塞や腎梗塞などの貧血性梗塞、結核の乾酪壊死。

融解壊死:脳梗塞、脳軟化症